

～野菜・花き・だいず チョウ目害虫が増加しています！～

県内に設置しているフェロモントラップで各種チョウ目害虫が多数誘殺されています。広島県では今後の気温が平年より高く推移する予測であることから、各害虫の活動に好適であるため、被害が懸念されます。ほ場内で若齢幼虫の発生を確認したら直ちに防除を行いましょう。

発生概況について

- (1) 各種雄成虫のフェロモントラップへの誘殺が、5月第5半旬から多く、6月第5半旬になっても例年と比較して非常に多く誘殺されています（図1）。
- (2) 県内における5月第5半旬から6月第5半旬の合計誘殺数は、地域差はありますが、県全体でそれぞれハスモンヨトウが平年比1.8倍、シロイチモジヨトウが平年比1.1倍、オオタバコガが平年比1.6倍、コナガが平年比3.9倍となっています。多い地域では5～10倍の誘殺がある地域も見られます。（表1）
- (3) 向こう1か月、広島県内においては気温が平年よりもかなり高くなる見通しであることから、各種害虫の活動に好適な環境となるため、次世代幼虫により被害を受けることが見込まれます。コナガに関しては今後の気温上昇に従って活動が低下すると思われますが、依然として誘殺数が多いため、引き続き注意が必要です。また、秋口に気温が下がってきたときも注意が必要です。
- (4) ハスモンヨトウは野菜・花き以外にだいずにも大きな被害をもたらします。シロイチモジヨトウやオオタバコガは既に野菜のほ場でも寄生が確認されています。コナガについては、前回の技術情報の発出以降も依然として誘殺が多く、現地でも被害が見られますので、ほ場の観察をお願いいたします。

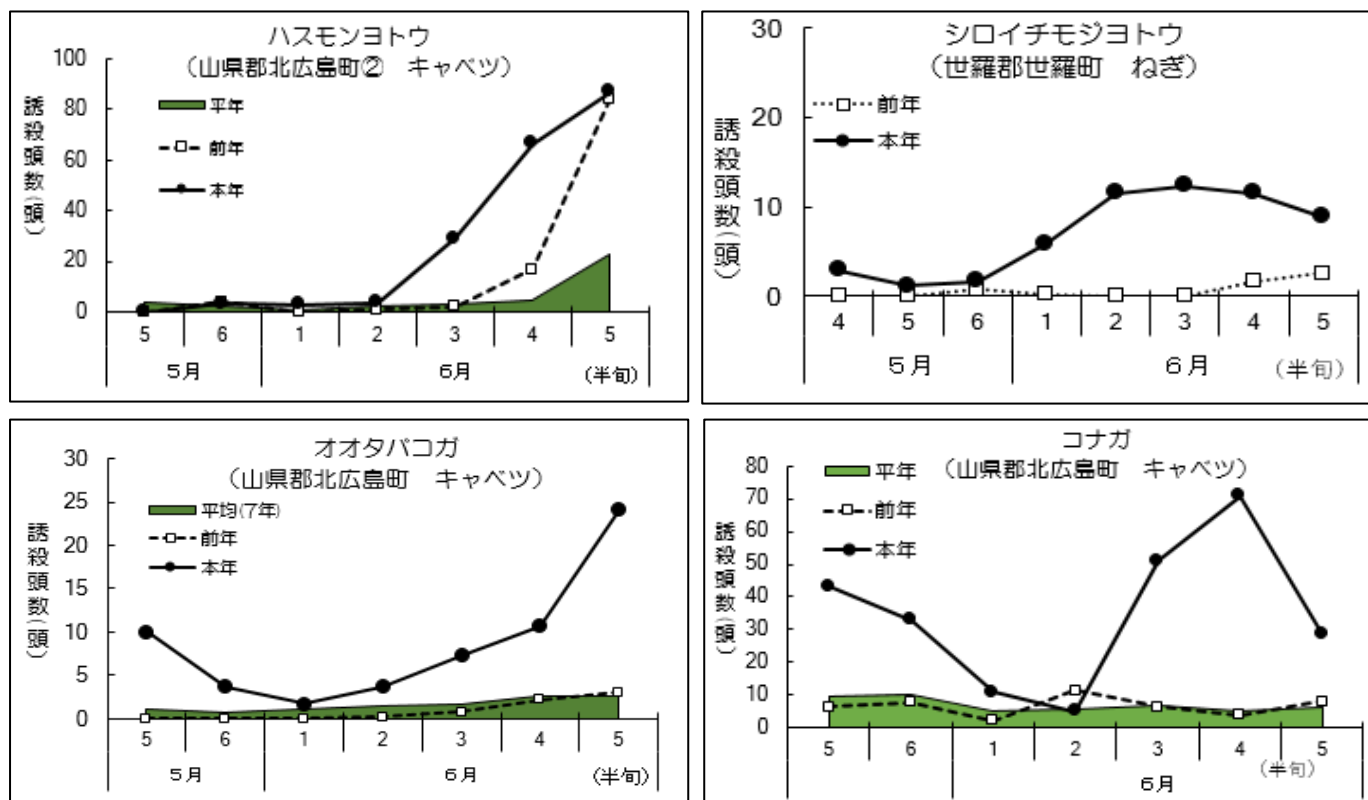


図1 フェロモントラップへの各種雄成虫の発消長（5月第5半旬～6月第5半旬）

表1 フェロモントラップへの各種雄成虫の合計誘殺数（5月第5半旬～6月第5半旬）

対象害虫	地域	作物	誘殺数		
			本年	平年	平年比
ハスモンヨトウ	東広島市	－	80.1	117.3	0.68
	北広島町①	キャベツ	79.0	57.1	1.38
	北広島町②	キャベツ	191.7	38.7	4.95
	福山市	アスパラガス	92.1	37.4	2.46
	世羅町	ねぎ	190.1	98.4	1.93
	三次市	だいず	232.8	120.8	1.93
シロイチモジヨトウ	福山市	アスパラガス	51.0	24.3	2.10
	世羅町	ねぎ	53.0	5.3	10.03
	三次市	だいず	6.0	69.5	0.09
オオタバコガ	庄原市	トマト	0.0	1.1	0.00
	神石高原町	トマト	1.0	0.9	1.08
	世羅町	キャベツ	13.6	16.0	0.85
	北広島町	キャベツ	67.8	13.1	5.18
	安芸高田市	レタス類	34.0	42.7	0.80
コナガ	世羅町	キャベツ	57.9	28.4	2.04
	北広島町	キャベツ	242.2	47.9	5.05

防除対策について

（1） ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ

- ①これらの幼虫は、広食性で多くの野菜類、花き類及びだいずを加害するため、注意が必要です。
- ②ハスモンヨトウは黄白色、シロイチモジヨトウは灰白色の毛におおわれた卵塊を葉裏に産みつけます（図2）。ほ場を見回り、卵塊が多くみられる場合は、幼虫の発生に注意しましょう。
- ③ふ化直後の若齢幼虫（図3）は作物を集団で加害します。また、中齢・老齢（図4）になってくると農薬の効果が低下するため、卵塊や若齢幼虫を確認したら速やかに防除してください。



図2 卵塊（左：ハスモンヨトウ、右：シロイチモジヨトウ）

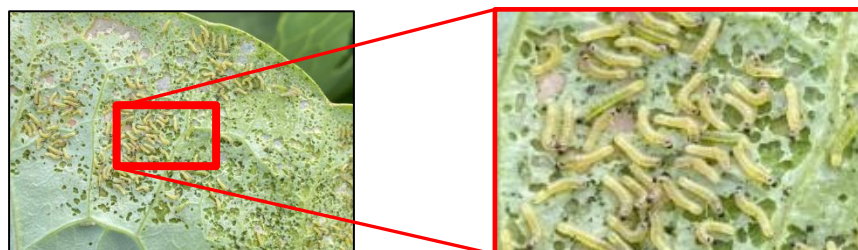


図3 若齢幼虫（ハスモンヨトウ）



図4 老齢幼虫（左：ハスモンヨトウ 中央・右：シロイチモジヨトウ）

（2） オオタバコガ

- ①寄主範囲が広く、野菜類や花き類の多くの作物を加害します。特に中老齢幼虫（図5）は、果菜類では果実に食入するほか、結球性の葉菜類では結球部に食入し、被害を及ぼします（図6）。
- ②果菜類では、穴の開いた果実には幼虫が食入していると考えられるので、食入した幼虫を捕殺、もしくは被害果ごと早期にほ場外へ持ち出し、処分しましょう。
- ③果実や結球部へ食入した幼虫は薬剤がかかりにくく、防除効果が落ちるため、ほ場をよく観察して食入する前に防除しましょう。

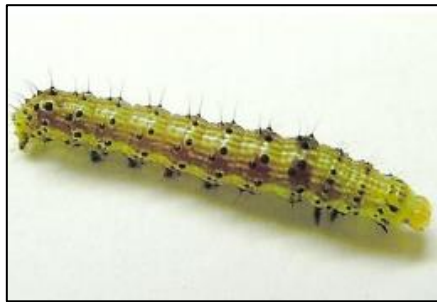


図5 老齢幼虫（オオタバコガ）



図6 トマトへ食入したオオタバコガ幼虫

（3） コナガ

- ①幼虫（図7）はキャベツなどのアブラナ科の野菜を食害します。
- ②1 齢幼虫は葉に潜り、表皮を残して葉肉部のみを食害するため、食害部は薄く透けたような状態になります（図8）。また、2 齢以降は葉裏に定着し、葉を孔（あな）だらけにします。このため、農薬散布時は葉裏にかかるように散布しましょう。
- ③老齢幼虫には薬剤が効きづらくなるので、発生初期の若齢幼虫期に防除しましょう。
- ④コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいため、農薬ラベルの RAC コードを確認し、異なる作用機作の薬剤をローテーション散布してください。また、散布後はほ場を確認し、防除できているか確認しましょう。



図7 幼虫（コナガ）



図8 食害痕（コナガ）

(4) 防除上の注意

- ①これらの幼虫は中老齢になると薬剤の防除効果が低下するため、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除しましょう。
- ②施設栽培の場合はハウスの開口部に4mm以下（コナガは1mm以下）の目合いの防虫ネットを張ることも効果的です。
- ③最新のフェロモントラップへの誘殺状況は、「ひろしま病害虫情報」ホームページでご確認ください。
- ④薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機作の薬剤をローテーション散布しましょう。
- ⑤薬剤散布については、農薬使用基準を遵守しましょう。収穫前日数に注意し、周辺作物への飛散防止対策も行ってください。

● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151

東広島市八本松町原 6869

TEL：082-420-9662（直通）



ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

ひろしま病害虫情報

検索

ホームページ
リニューアル！

